

令和3年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 一般向け講演会 報告書

1. 講演会名：「ひと足先に認知症になったわたしから伝えたいこと」
2. 目的：広く認知症について啓発を行うと同時に、講演会を通して若年性認知症当事者の方々の体験を知り、必要とされる支援について考える場とする。
3. 対象：ご本人、介護家族、一般市民、企業の皆さん、専門職、すべての皆様
4. 方法：沖縄県医師会館にて会場参加（50人）・オンライン同時開催での実施とする。会場参加は、若年性認知症ご本人とご家族、付き添いの介護支援者を優先で案内した。前半は若年性認知症ご本人、さとう氏に登壇頂き、認知症と診断された時期の不安な気持ち、そこから今までの経過についてお話し頂く。後半に主催者より、若年性認知症支援コーディネーターの役割と支援について報告。終了後は、登壇したさとう氏の“現地のご本人の皆様と会いたい“という思いに焦点を当て、会場の一部で会場参加された方との交流会を30分程度開催。
5. 主催者：沖縄県（受託先：特定医療法人アガペ会沖縄県若年性認知症支援推進事業担当新オレンジサポート室）
6. 日 時：令和3年12月5日（土）開演時間 13時30分～15時
（交流会 15時～15時30分）
7. 会 場：沖縄県医師会館 3階ホール（〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川 218-9）
8. 参加費：無料
9. 配布資料：当日のスライド資料は開催後に、特定医療法人アガペ会のホームページからダウンロード出来るようにする。当日会場受付の方には利用できるサービスの説明資料を配布。会場後部テーブルにて、新オレンジプラン、認知症施策大綱等の資料と「一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ」の活動、“認知症とともに生きる希望宣言” “本人にとってのよりよい暮らしガイド” について紹介するブースを設置。
10. 申込期間：令和3年11月19日（金）～11月29日（月）
 - ①会場受付のみ開催一週間前に申込締切
 - ②オンラインに関しては開催当日まで締切無しで対応。
11. 申し込み方法：チラシ・パンフレットを①会場用と②オンライン用で作成。①会場申込フォームはGoogleでお名前（ふりがな）、メールアドレス、お立場、職種、居住区、登壇者への質問を入力。これまで電話・FAXでの申込であったため、裏面にはFAX用申込を添付した。②は沖縄県医師会館の職員でウェビナー申込フォーム作成して頂く（項目は①同じ）。チラシ・特定医療法人アガペ会ホームページからQRコード又はURLから

受付入力可能。

会場：50人・オンラインウェビナー1000人まで参加可能

※昨年度から引き続き、新型コロナウイルスの感染状況もあり、「沖縄県主催イベント等実施ガイドライン」に沿って研修会の規模縮小や変更、中止となる場合を提示。

(健康状態申告書：お名前、居住地区、緊急連絡先、メールアドレス、開催当日の体温測定、2週間以内の発熱の有無、感染拡大地域への訪問歴の確認、ワクチン接種の有無記載については、当日会場にて参加受付の際検温・記載をして頂く。

※台風の際の中止の連絡は、申し込み者へ直接行う。

12. 広報

新聞掲載（琉球新報社・沖縄タイムス社へ掲載、各新聞社週刊発行の無料欄への掲載）間に合わず、沖縄県高齢者福祉介護課から各市区町村の関係機関への広報 FAX、認知症疾患医療センター琉球大学病院・特定医療法人アガペ会のホームページ掲載、facebook等の SNS を利用。会場参加については、若年性認知症支援コーディネーターが支援している方を対象に電話・メール等で案内。

13. 事前申し込み確認：①会場申込：（締切日 11月29日確認）37名（2名オンラインへ変更）

FAX申込：5名（2名オンラインへ変更）電話：1名

②オンライン（12月1日確認）

14. 当日参加者：会場 37名

（当事者 13名、家族 16名、専門職 8名、一般 0名）

オンライン 85名

（当事者 3名、家族 10名、専門職 64名、一般 8名）

16. 内容

テーマ1. 「ひと足先に認知症になった私から伝えたいこと」佐藤みき氏
体調低迷が続いていて若年性認知症についての恋愛ドラマを観て、自分と似ていると感じて受診した事。病院で検査を受けて診断・告知されてショックで閉じこもる状況になっていたが、同じ病気の当事者と出会い、認知症になっても工夫次第で日常生活が遅れる事、病気になっても働けることの体験談をお話しされていた。現在、介護保険事業所で支援者側として働いていることをお話して頂き、「町田BLG！」の最新の活動動画を視聴させて頂きました。誰のための支援なのか？当事者抜きの支援をしていないか？家族に相談するのではなく、当事者の意見を聞いて欲しいというメッセージも伝えられました。息子さんの障害をカミングアウトした事もお話があった。

テーマ2. 「若年性認知症支援コーディネーターの役割と支援・課題について」
若年性認知症支援コーディネーターの役割（業務の内容）と支援の方法等を周知することで、多職種との支援連携が運勝になるのではないか？という視点で、1. 相談業務・当事者と家族の居場所支援、2. ネットワーク構築のための自立支援会議を開催していること、3. 支援者研修・一般講演会を毎年実施していることを説明した。
支援をする中で色んな部署との支援連携が必要な事や、高齢者にはない①経済的支援②就労支援③子どもの支援の集中支援を終了して、居住区の地域包括支援センターや、就労支

援事業所、介護保険サービス事業所・ケアマネージャーに繋いだ後もご本人が65歳到達するまでは経過を追って後方支援する事にポイントを絞って説明した（集中的支援を引き継いだ後に連絡がこない、支援が中断したままになっている、相談や報告がない等のケースが多く見られたため、困難な状況になった場合等相談対応にのる事などの説明を丁寧に伝えた）。

講話終了後に、会場からの質疑応答を対応したが、オンラインでも質問が着ていたが、対応できず。自分が認知症と周りに発信すると決めたことについて等質問があった。

講演会終了後、オンライン参加者はアンケート呼びかけ・記載して終了。会場では、登壇した佐藤氏の希望で、沖縄県の若年性認知症当事者と繋がりたいという思いもあり、会場の一部で円になって座り、当事者同士の交流会を30分ほど実施した。佐藤氏へ当事者自身として「自分はとても苛々することが最近多いですが…そんなことないんでしょうか？」等の質問されていた。

（テーマ2については、スライド資料あり）。

17. アンケート結果：①会場 回答 34 名 回収率 91% %
②オンライン参加回答 35 名回収率 41%
アンケート集計については別紙の添付いたしました。

16. 主催者の所感

会場設営等は、特定医療法人アガペ会から職員の協力を頂いて実施した。オンライン開催については、沖縄県医師会館の職員 2 人在中して頂き、機器等のトラブルの不安無く、運営に集中でき開催が出来た。

若年性認知症の当事者としての講演会が久しぶりのためか、参加のきっかけは「当事者の声が聞きたくて」等の意見が多かった。沖縄県内では当事者の講演活動をする方がいない状況のため、今回の当事者の声を発信出来たことはとても良い機会となった。

佐藤氏の講演で、病名の告知で落ち込む事を聞いてみんな落ち込むんだと聞いて良かった等の意見もあった。佐藤氏も気分のムラや変動が強いが講演会当日は活気もあり無事に開催出来たことは良かった。当事者の体調は、常に良い時だけでなく、体調低迷な時があることも周りに知ってほしい事だが、一度に沢山の事はお伝え出来ない為、当事者の体験についての講演は今後も必要だと感じている。

講演会終了後の交流会は30分を予定したが、会場に居た当事者が殆ど参加された状況だったため、大人数で各自それぞれの生活状況についてゆっくり話す事は難しかった。また、トイレサポートの際に男性スタッフが多かったため、女性のサポートの際に女性スタッフの在中を考慮する必要がある。

会場アンケートは当事者参加が多いので、もう少し答えやすいように策を練る必要があったと反省している。会場運営・機器対応も問題なかったが、オンライン事前申し込みの状況やオンライン参加者の数、オンラインアンケートの記載資料についても施設側から受け取るまでに約1ヶ月時間が経過し、会場参加の資料のみでは全体像を把握しにくい状況と円滑なまとめは困難であった。今後は円滑に情報を受け取れるよう調整が必要だと感じている。

また、機器対応の方が常駐していたので、オンライン参加の方の質問にも対応出来たら良かったと感じている。

以上